

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196000020		
法人名	クリーンハウス株式会社		
事業所名	グループホームたんぼぼ榊館		
所在地	三笠市榊町460番地		
自己評価作成日	令和5年2月15日	評価結果市町村受理日	令和5年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=0196000020-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和5年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護事業部全体でミッション、ビジョンを構築し実施しています。評価・反省を繰り返す事で良いケアが出来る様に努めています。榊館は子ども達の通学路で、子どもSOSの家にもなっています。又、人の往来が多い場所にあり、気軽に立ち寄っていただけるような地域との繋がりを大事にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームたんぼぼ榊館」は2008年10月に三笠市の住宅街に開設しています。1キロ圏内には三笠市役所、市立総合病院、福祉センターがあり、地理的な災害の心配がない地域でもあります。徒歩圏内の系列2事業所とは合同で運営推進会議や行事を行うなど日常的に協力体制がとれています。また法人の介護事業部は「身体拘束適正化・虐待防止委員会」をはじめ関連研修を合同で行っており、各事業所の積極的な情報交換が支援の質向上につながるなどの相乗効果を生んでいます。管理者が長年培った人脈は町内会との関係継続に活かされ、また市役所の各担当者へ様々な提案を図るなど連携を深めています。事業所は「その人らしい暮らし」を支えるため、「インフォメーションシート(写真・自己紹介・生活歴・身体について記載)」を作成し、利用者の喜怒哀楽を大切にするというテーマを設けています。コロナ禍では一人も感染者が発生せず、制限を徐々に緩和する方針です。現在は「日常を取り戻す」を合言葉に、利用者の希望を取り入れた行事や外出先の企画に取り組んでいます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護事業部の理念を職員全員で作りました。3ヶ月~6か月間で実践、職員会議の場で評価、反省を繰り返しています。	2年前に策定した新ミッション・ビジョンの項目から3か月ごとに目標を決め、実践・評価・課題確認を行っています。理念の理解を深めるこの一連の流れが定着し、職員間での意見交換が活発となり、支援の質向上に繋がっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策の為行事や地域行事には参加出来ていませんが、通学する学生に対し窓越しでのコミュニケーションをとっています。近隣住民への挨拶なども行っています。	コロナ禍で地域交流に制限のある中、通学の子どもたちに窓越しで手を振り挨拶を交わしており、子ども110番の登録もしています。また近隣の住民から野菜の差し入れがあるなど関係性は継続しています。町内会役員と意見交換を重ね、今後の町内会活動を模索しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策を継続している為難しい部分があります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策を継続している為書面での開催となっています。意見やご質問を受けサービスの向上へつなげています。	隣接する同一法人の3事業所合同で2か月ごとに開催しています。現在の参加は職員のみですが、議事録は構成員の自治体関係者、町内会役員、家族へ配付しています。配布先から入居条件や認知症の詳細を知りたいという意見を受け、次回の議題で企画しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールや電話等で報告や相談をし様々な助言を頂く事が出来ており、協力関係が築けている様に感じています。	介護福祉課との日常連絡のほか、広報誌で得た情報を基に保健福祉課栄養管理係との連携を図るなど、自治体関係者へ積極的な働きかけで協力を得ています。直近では行政に対し、地域全体で取組む防災訓練の発案を予定しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し他のグループ事業所と連携を図り研修会などを行い身体拘束をしないケアに繋げています。	「身体拘束適正化・虐待防止委員会」を法人の介護事業部合同で3か月ごとに実施し、会議録・資料を事業所内で共有しています。全職員が参加対象の講習会をはじめ、日常支援ではモニタリング会議で該当するケアの有無や評価を確認することで理解徹底に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置しており、虐待や不適切なケアについて研修しています。虐待に繋がらない様会議などで話し合い理解を深め防止に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	申し込みの方に成年後見人制度を利用されている方はいませんが現場で説明をしています。研修会など制度を学ぶ機会が少ないです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要説明事項を行い、契約の際には双方誤解がない様に、ご家族、ご本人の意見をお聞きし、説明させて頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族と連絡を取り、何かある際には必ず連絡を取る様にしています。毎月お便りにて近況の報告をしています。	家族へは毎月の通信発行時、来訪時、介護計画作成時などの機会に、事業所に対する意見や要望を聞いています。直近では使用した衛生用品の内訳を知りたいという要望があり、請求明細項目に内訳欄を作り対応しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常の会話から意見や提案を出し合い反映できるように管理者・リーダーや計画作成担当者との会議で検討しています。	職員は管理者と日常的に意見交換をしており、職員会議、年2回の個人面談でも同様の機会があります。直近では事案発生時に原因等を迅速に確認できるよう、申し送り書面を全体と個人別に分ける提案があり、実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年より評価制度を取り入れています。職員個々を平等に評価できる様整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修会を開催し、ケアの向上に努めています。施設長との面談を行い個々の目標に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部研修会への参加の声掛けで同業者との交流の機会を作っています。今年度は感染対策の為実施できていません。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問で面談しご本人の状況を把握するように努めています。入居後も職員間で情報を共有しあいご本人の気持ちに寄り添いながら関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より家族が感じている思いをくみ取れるようにお話を聞いています。入居後も細かな情報提供や相談等するよう各職員が取り組んでいます。ご家族が相談しやすい雰囲気作りにも努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	限られたサービスの中で少しでも家族や本人の要望に対応できる様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの思いを大切に、その人らしい生活が送れるように意識し関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かがあった時にはご家族に相談をさせていただき、協力を依頼しながらケアに取り組んでいます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策の為難しい部分もありましたが、窓越しからの面会時に電話を繋ぐ等出来る限りで取り組んでいます。	事業所はコロナ感染者の発生がなく、家族との窓越し面会を中止することなく実施しています。訪問美容や近隣の散歩、通院先の待合室で顔なじみの方との会話など関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中でお互いが苦痛にならない様に個々の利用者様の状態を見て見守り、必要性がある時には間に入り良い関係性が持てる様に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した利用者様ご家族から連絡が来る時もあり関係が続いている方もいます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の日常から希望や要望をくみ取れる様に努め、日々穏やかな日常をおくれる様にしています。	思いを表出できない利用者には家族や関係機関からの情報を基に、本人の思いの把握に努めています。リラックスできる入浴中に、思いや希望を聞くことが多く、得た情報は職員間で共有し、理念に繋がる「その人らしい生活」を支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からご家族やご本人からの聞き取り、担当ケアマネージャーからのフェイスシートなどを活用して把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録やご本人との関わりの中から職員間で情報の共有をし、把握に努めています。ケア会議など開催し気づき、変化の確認をしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するには会議を開き情報を共有しています。家族にも連絡し意見を反映するようにしています。	介護計画は計画作成者が支援記録や本人・家族の意見を反映させ原案を立案し、職員会議を経て計画を確定しています。毎月モニタリングの結果を記録し、3カ月ごとに見直しを行っています。また心身の状態に変化があった際は、都度再作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の記入方法、書式などを職員間で話し合い他ユニットへも共有し介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームならではの柔軟な考えを持ちニーズに対応できる様職員間で話合っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染対策の為地域資源の一人と考えるのは難しく、安全を優先していました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関として往診医は東町ファミリークリニック、ホームケアクリニック、通院は市立三笠総合病院にて適切な医療を心掛けています	連携している総合病院が元々かかりつけ医である利用者が9割を占めています。隣町の精神科など専門医への受診は職員が同行支援しているほか、週一回の口腔ケア、看護師配置などの医療体制をとっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	三笠内のグループホームに週3回非常勤看護師が出勤し利用者様の情報提供、相談、処置を依頼しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には内服、既往歴等本人の状況をまとめた医療情報シートを用意しています。地域医療連携室とのカンファレンスも行う様にしています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化や終末期ケアに向けた指針の説明を行っています。終末期を迎えた場合は往診医への相談、切り替えを行いご家族との話し合いを重ね、希望に寄り添ったケアに努めています。	入居時に「利用者の重度化・看取り介護に係わる指針」を家族へ説明し同意を得ています。訪問診療医から終末期のケアについて多くの学びを重ね、家族支援や職員のメンタルケアをさらに充実させるために、改めて終末期ケアの心構えを職員に説いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応をマニュアル化し会議などで説明、確認をしています。連絡網を作成し緊急時に対応出来る様にしています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域や消防に協力を依頼し年2回避難訓練を行っています。地震や水害などの対応方法も職員間で話し合いをしています。	令和4年度は7月に地震想定、12月に火災避難訓練を実施しています。12月の訓練では避難路に課題が見つかり、停電・断水時の食事提供を含め対策を検討しています。新年度から系列の他事業所で実施している効果的な防災訓練の実施を視野に入れていきます。	電気・ガスを使用しない調理、保存食提供など災害対策を進めています。事業継続計画は策定済みですが、職員周知には至っていません。利用者・職員の安全を守るためには避難訓練の課題解決をはじめとして、全職員が事業継続計画の理解を進める事を期待します。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対する言葉かけの中で口調や声の大きさ、目線等に気を付けています。人生の先輩として人格を尊重し接するよう努めています。	今年度、5名の新規入居者があり各利用者の人格尊重をし、喜怒哀楽を見守りながら人間関係の構築に留意しています。居室で過ごすことが好きな利用者には、その時間を大切にしながら安全や適度な声掛けに配慮をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での対話や関わりで希望があれば対応出来る様に取り組んでいます。自己決定が出来る様に			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ご本人が希望する生活が少しでも送れるように、又ゆったりと穏やかに過ごせる様に努めています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の自己決定が出来るよう支援しています。ご自分では難しい方には季節や気温に気を付け配慮しています。必要に応じ、ご家族様にも衣類の相談をさせていただき協力をして頂いています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ感染対策として仕切りなどを使用したり一緒に食事を摂る事は出来ませんでした。利用者様にはメニューの相談をしたり個々の嫌いな物を把握し提供しない様になっています。	食事は3食手作りで、季節感のあるメニューが提供されています。正月、ひな祭り、縁日、誕生会など様々なイベント食に楽しく参加できるよう工夫しています。コロナ禍で中断していた利用者の調理参加や盛り付けも再開を検討しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録用紙を活用し水分や食事量の確認をしています。食事、水分の確保が難しい方は時間をずらしたり、形状を変えて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしています。利用者様に合わせた口腔ケア用品を購入し行っています。協力歯科医院にもは行って頂き口腔ケアをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	水分チェックシート、健康管理シートを活用し排泄状況の把握をしています。	約半数の利用者は、排泄は自立しています。声掛けの必要な利用者、全介助者と一人ひとりに応じた支援を行っています。排泄は水分量とともに一覧表でチェックし、個別記録に転記しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの運動量や食事内容、水分量を把握し便の形状や量の観察を行い必要時職員間で確認しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴していない日数の把握をしています。ゆっくり安心して入浴して頂ける様配慮しています。	週2回をめぐり、日課に合わせた時間帯で入浴支援をしています。介助を必要としない利用者が多いため、危険な場面がないか、椅子等が体のサイズに合っているか注意深く観察しています。利用者の同性介助の希望に応えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の表情や様子を日々記録し思いに添えるよう柔軟に対応しています。夜間帯や日中の環境に配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルを作り効用や副作用について把握しやすくしています。非常勤看護師や主治医、薬剤師等に話を聞きどのような事が考えられるか等し、変化に気付ける様努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	感染対策がなされる中でも出来る事を見つけ少しでも楽しんで頂けるように努めていました。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人のいない時間、場所を選びドライブや散歩等実施しました。	コロナ禍では近隣の散歩のほか、感染対策に配慮しながら近郊の紅葉狩りや観光地へのドライブに出かけています。次年度は外出機会の増加が見込まれることから、利用者から外出先の希望を聞き、経路や時間、車椅子可能なトイレの確認など情報収集に着手しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に金銭の管理についてご家族と相談し紛失しても気にならない額を所持して頂いています。利用者さまにより所持していない方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望した際には対応しています。ご家族様にも電話に出られる時間帯など確認しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音を出さない様配慮したり、照明の明るさに気を付けています。季節や行事ごとに飾りつけを工夫し四季や行事を感じて頂けるように取り組んでいます。	共用空間は音・光・湿温度等に配慮し、リビングの壁面の装飾で季節感を表現し、折り紙などの利用者作品やイベント時の写真も掲示しています。職員は入居者同士が不快な思いをせずに、楽しく会話ができるように座席の位置なども含めて環境作りに心を砕いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	感染対策をとっている為自分の居場所を作る事が出来ない方もいますが、少しでも落ち着いて過ごせる場所を提供するように取り組んでいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みのある物を持ってきて頂けるようにご家族にお話させて頂いています。安全面を考えながら本人の希望する位置へおけるようにしています。	居室は馴染みの家具や寝具が持ち込まれ、安全面を考慮して配置しています。電気カーペットを使用し、好みの温度に調節することもできます。シンプルな部屋を好まれる方、家族から毎月届く絵葉書を飾っている方など本人の生活に沿った空間が確保しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には手すりなどを付け歩きやすい様にしています。場所がわかる様な表札などもつけています。		